

令和 4年 11月 30日

令和 4年度 第 8号

西が岡

学 校 だ よ り 12 月

自分大好き みんな大好き ひとみ かがやく 西が岡の子

横浜市立西が岡小学校 泉区西が岡 3-12-11 Tel.814-3603

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nishigaoka/>



変化していく「新しい生活様式」

校長 佐藤 裕二

新型コロナウイルス感染症の流行が世界的な脅威となり、3年近くが経とうとしています。令和元年度末に緊急事態宣言が発令され、その頃から「新しい生活様式」という言葉が盛んに言われて、私たちは日常生活を送る上での意識の変換を余儀なくされました。一人ひとりの基本的な感染防止対策としては、「身体的距離の確保」「マスクの着用」「手洗い・手指消毒」の必要性が言われていました。また、日常生活を営む上で、3密（「密集」「密接」「密閉」）の回避も盛んに言われてきました。その後、ワクチンが開発され、国民のワクチン接種が進むにつれて、「ウィズコロナ」としてコロナ禍での生活の在り方が話題になるようになってきました。

今の3年生は、入学したときからコロナ禍での小学校生活を送っています。1・2年生については、コロナ禍での園生活を送った上で、本校への入学となっています。マスクをした学校生活、同じ方向を向いて静かに食べる給食しか知らない児童が半分を占めていることとなります。

11月24日付で配付をした通知にも記載しましたが、この度、「横浜市立学校における新型コロナウイルス感染症に関する管理衛生マニュアル」が改訂されました。内容としては、概ねこれまでの感染症対策を継続しつつ、「身体的距離が十分とれないときはマスクを着用すべき」としながらも、屋外では原則マスク着用は不要（人との距離が保てず、会話をする場合は着用）とすることが明記されています。

最近では、「表情から相手の人の感情を読み取る力が育ちにくい」「恥ずかしくてマスクを外すことに抵抗がある」といった「新しい生活様式」による弊害も指摘されています。こういった懸念も考慮し、マスクを外せる場所では外すという「新しい生活様式」になってきているのではないかと思います。

現在、第8波に入ったとも言われており、年末年始に向けて感染拡大が心配されています。油断をすることなくこれまで同様に感染防止対策に努めながら、もう一方で「マスクを外せる屋外では外す」ことで、情操豊かな子どもの育ちを支援していく時期なのかもしれません。

